

看取りケアに取り組んで

～看取りケア導入前と導入後の気持ちの変化について～

介護老人保健施設 東風の里

発表者 喜舎場志乃莉

【はじめに】

当施設では、令和3年7月より「看取りケア」に取り組んでいます。そこに至るまでには職員の方の葛藤など紆余曲折がありましたので報告いたします。

【看取りケア導入前】

介護職の不安として、「看取りケアって何?」「介護職が不足している中で出来るのか不安」「看取りの対象となる基準がわからない」など、看取りの経験がないことへの不安が多く聞かれました。

看護職の不安としては、「目の前で命が失われることに対する不安」「ご家族への声掛けの仕方」「知識や技術面での不安」が聞かれました。

【導入に向けての取り組み】

職員の「看取りケア」に対する不安を取り除くために、令和元年7月～令和3年6月までの約2年をかけて、月1回のペースで勉強会を開催しました。内容は、他老健施設から看護職や介護職を講師として招き、「看護の視点」「介護の視点」また、葬儀屋さんから講師を招き「葬儀までの手順など」を講義してもらいました。

【看取り件数】

令和3年度 男性 0名 女性 4名
令和4年度 男性 1名 女性 6名
となっております。

【看取りケア導入後】

介護職の心境の変化として、色々な面でまだ不安はあるが、何回か経験したことで不安は軽減している。看護職の心境の変化としては、今までは天命を全うしたであろう方に延命処置を行い救急搬送を行っていたので、これで良いのかという気持ちであったが、看取りを行いご家族から「感謝の言葉」「前向きな言葉」が聞かれ自信につながっている。また、色々と学ぶことができ、日常生活だけでなく、最後までケアすることが出来て良かったとの意見が多く聞かれます。

【課題】

今後の課題として、看取り部屋が固定されていない。居室が変わったりするので戸惑う。看取り期の入浴介助に気を使い気疲れする。などの意見があるので、職員全体に看取りケアについて周知する必要性と、不安を抱えている職員に対しては「個人面談」を行う必要があると感じています。

【まとめ】

亡くなる瞬間を切り取って看取りケアと捉えがちですが、施設へ入所された時から始まっています。看取りは特別なケアではなく、日常的なケアの延長線上にあると考えられています。

つまり、毎日のケアの積み重ねが看取りケアであると言えます。

看取ることを経験させてくれる利用者様・ご家族様にこれまで以上に感謝し、看取りケアに取り組んでいきたいと思っております。